



「私はこう考える」編 その9

○前震、本震後、体育館に避難することなく車中だったので、学校の様子、先生方のご苦労が美咲野小だよりを読むことで分かって、とてもよかったです。私が中越地震の経験者だったので、落ち着くまでの流れは少し分かってはいるつもりでしたが、子どもがいる状態で被災は状況も違って、心のケアにも気をつけねばならず、気を遣いました。～中略～ 早く皆さんが元の生活に戻れるようお祈りします。読み応えがある貴重な便りで、地元の両親にも読ませてあげようと思います。

○私たち家族も本震後すぐに美咲野小グランドへ行き、夜が明けるまで車内で過ごしました。電気も水も使えず、とても怖く、一日も早く普通の生活に戻りたいと心から思っていました。入学後、3回だけのランドセルをかって歩いている登校。本人も「早くまた小学校に行きたい。」と心待ちにしておりました。今はここに笑顔で登校する姿を見て安心しております。



○まさか熊本で地震なんて、まさか自分の身に起こるとは・・・甘く見ていました。14日の地震で終わり、月曜から学校は始まると思っていたところに16日の本震。夢だと思えませんでした。子どもたちをかかえ外に出ても地面が揺れる感覚、すぐに学校へ向かうと鳴り響くベルの音。次々に人が集まる異様な光景でした。体育館で眠れぬ夜を過ごし朝になり、主人の実家へ避難しました。実家は被害も少なく、電気・ガス・水道も通っており日常の光景に子どもたちも安心して過ごすことができました。熊本地震のことは忘れてはいけませんが、大人も子どもも安心して過ごせる日常を祈っております。



○地震が起きた次の日から、ご近所の人たちと昼間は一緒に過ごすようになりました。子どもたちも一緒に遊べるので、元気に過ごしていました。でも夜になると、また地震来るかなど不安になる時がありました。この地震で、ご近所皆で助け合うことができました。先生、PTAの役員さん、みなさん大変だったと思いますが、皆さんのおかげで子どもたちも学校に行けるようになって、本当に感謝しています。



○私も学校再開に向けての、拡大大学校運営協議会に参加しました。先生方の「皆さんの意見を聞いてメール配信したい」という配慮も今回の美咲野小だよりで保護者の方に伝わったのではないかと思います。



○先生方の協力の下、一つ一つ工夫して頂き、子どものために一生懸命して頂いて何もお手伝いできないのが保護者としてふがいないです。地域の学校なので、地域の親が参加できることは何でもいたします。これからは、先生方ばかりでなく保護者も一緒にすてきな美咲野小をつくっていききたいですね。



美咲野小だより

7月

NO.24
H28.7.21
大津町立美咲野小学校
文責：草場ルミ子

美咲野小の想い

夏休み前に、「熊本地震 美咲野小の想い」を完結させようと、皆さんからのお返事を改めて読み返しました。実は、皆さんのお返事に内容毎に蛍光ペンで線を引いていました。子どもたちは黄色、自分の体験・考えたことは水色、学校やPTA役員さんへの感謝はピンクです。載せたか載せてないかにも印を付けていました。まだ載せていなかったのは、ピンクのラインがほとんどでした。学校への感謝の文章を読み、大変嬉しく思っておりましたが、地震の直後は、これを載せると、反発が強いので、謝ることもできなかつたことを思い出しました。そして、私が嬉しかったこと、「近所づきあいが大切だ」と思っていたこと、「自分たちの手で美咲野をすてきな地域にしていきたい」という言葉でした。新しい地域である美咲野にとっては、とても大切なことだと思えました。子どもたちにとっては美咲野がふるさとになります。誰かがふるさとをつくってくれるのではなく、子どもたちもみんなふるさとをつくっていくのだという思いをもっている方がたくさんいらしたことに気づけたことがとても嬉しかったです。

お父のせ

12月3日(土)今年度2回目の土曜授業を実施します。その際、以前美咲野小だよりで紹介した「宮城県の元女川一中の佐藤敏郎先生」に来て頂けることになりました。いつか保護者・地域の皆さんにも聞いてもらえる機会を作れたら・・・と考えていたことが実現できそうです。是非、この日を空けておいて頂きたいと思いい、早めの連絡をさせてもらいました。

くまもと家庭教育支援条例 事業者の役割 (第9条)

従業員が、仕事と家庭のバランスがとれるよう配慮していきましよう。



